

## 【桶川市】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

桶川市教育大綱においては、「生きる力を育み未来へはばたく桶川の教育」を基本理念として掲げ、次代を担う子どもたちが、先行き不透明な時代を生き抜くために「自ら学び、考え、判断し、行動する能力」を身に付け、コミュニケーション能力を養うとともに、思いやりや感動する心と、たくましく生きるための健康や体力を兼ね備えた「生きる力」をしっかりと身に付けることが求められています。

この基本理念の実現に向けて、1人1台端末等のICT機器の利活用については以下の施策を掲げている。

##### (1) 一人一人の確かな学力を育む教育の推進

###### ① 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業の改善

本市の児童生徒の学力は、「学力・学習状況調査」等の結果によると、小学校の国語では「書くこと」に、中学校の数学では「数と式」に課題があるとされている。社会を取り巻く環境が大きく変化し続ける中、子どもたちが自らの人生を切り拓くための力を身に付けさせるため、基礎的な「知識及び技能」を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な「思考力・判断力・表現力等」を育み、「主体的に学習に取り組む態度」を養うことが求められている。

###### ② ICTを効果的に活用した授業の充実

超スマート社会（Society5.0）の実現に向けて、急速な技術革新が進む中、本市においても、児童生徒の1人1台の端末と、それを活用するためのネットワーク環境が整備された。子どもたちが豊かな人生を生き抜くために、デジタルテクノロジーの積極的な活用と、未来を見据えた次世代の教育の創造が求められており、今後は授業を中心にさらなる取組を進め、積極的な活用に加えて効果的な活用を積み重ねた授業を実践する。

##### (2) 時代の変化に対応する教育の推進

###### ① 超スマート社会に対応できる児童生徒の育成

超スマート社会（Society5.0）の実現に向けて、急速な技術革新が進む中、学校教育においては、倫理的な視点や、情報セキュリティ教育が重要となっています。児童生徒が情報の真偽を判断し、安全に活用する資質能力を育むため、端末を活用した授業とともに、情報の取り扱いについて学びテラシー教育や情報モラル教育の充実が求められている。

## 2. GIGA 第 1 期の総括

桶川市では、令和 2 年度末までに市内小中学校 11 校の 1 人 1 台端末の整備が完了した。また、ネットワーク環境整備についても、令和 2 年度末までに高速大容量ネットワークの整備を完了した。令和 3 年度には端末の持ち帰りのルールを整備し、家庭学習においても端末を活用できる環境を整備した。

一方で、1 人 1 台端末の利活用が進むと、経年劣化等による端末の破損や故障が増加し、端末の修繕に係る期間が長期化していた。また、修繕が完了するまでの間、代替機としての予備機の活用が徐々に増加に傾向となっていた。端末の次期更新にあたっては、修繕期間中の代替機の確保や端末の保証内容を見直し、端末に不具合が発生しても、全ての児童生徒の学びを止めない、常に端末を使用して学習できる環境の構築を行う。

また、学校教育情報化推進委員会においては、1 人 1 台端末の効果的な活用や ICT 活用に関する課題の共有および解決に向けた協議を行い、共通理解を図った。1 人 1 台端末のさらなる活用促進に向け、文部科学省 ICT 活用教育アドバイザー等を招き、ICT 機器活用研修を行った。結果、ICT を授業で活用している教職員の割合が 10 ポイント以上上昇した。

## 3. 1 人 1 台端末の利活用方策

1 人 1 台端末を含めた ICT 機器の利活用について以下の方策に取り組むとともに、端末が破損や故障した場合でも、予備機を活用しながら、速やかに端末の修繕を実施できる体制を整備し、学びを止めない 1 人 1 台端末学習環境を整える。

### (1) 一人一人の確かな学力を育む教育の推進

#### ① 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業の改善

各種調査（学力・学習状況調査等）の結果を分析し、成果と課題を検証することによって、課題となる部分に対して効果を発揮できるよう、授業の改善を図る。

#### ② ICT を効果的に活用した授業の充実

誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びを実施していくために、各教科等の特質に応じた適切な学習場面での ICT 活用について、各学校で研究を深めるとともに、研修会等において方策を発表し、市全体で情報を共有する。

### (2) 時代の変化に対応する教育の推進

#### ① 超スマート社会に対応できる児童生徒の育成

1 人 1 台端末の効果的な活用により、児童生徒のデジタルリテラシー等の向上を図るとともに、情報を正しく安全に利用するための情報モラル教育を推進し、超スマート社会（Society5.0）に対応できる人材を育成する。